

ということしか言われておりません。もう少し沖縄県のことや日本の国の安全保障、そういう点を踏まえてお考えをいただきたいという気持ちでございまして、お会いして良い結果が出れば良いと思うのですけれども、より対立が深くなるということではお会いしても意味がありませんと申し上げた上で、そういった状況に至ったならば、お会いすれば良い結果が出るのではないかと。何とか御理解いただけるように、こちらとしても誠意を持ってやってまいりますので、お会いしてお話をしたい、いい結果が生まれるようにこちらも努力をさせていただきます。

○国務大臣(岸田文雄君) まず、選挙結果について御指摘がありました。この選挙結果については、いずれも真摯に受け止めたと思います。その上で申し上げますが、普天間飛行場の固定化、これは絶対に避けなければならない。これは政府と沖縄県民の皆様方との共通認識であると思っております。そして、政府としては、辺野古への移設が唯一の解決策であるという一貫した立場にあるわけです。是非、負担軽減に取り組みとともに、普天間飛行場の返還が実現するよう、法令に基づいて粛々と進めていきたいと考えています。

○国務大臣(中谷元君) お尋ねの申入れは、先般、沖縄県の安慶田副知事さんが沖縄の防衛局を訪ねまして、第三者委員会の検証作業の間、同事業に係る調査等を見合わせる等の配慮を求められたと承知をいたしております。また、代替施設建設事業に係る岩礁破砕等の許可に関し、二月十六日、沖縄防衛局は沖縄県から、同局が行ったブイのアンカー設置について必要な手続を実施するとともに、資料や現状写真を求められたと承知をいたしております。

○国務大臣(中谷元君) 工事の実施等につきましては、様々な角度、見地におきまして沖縄県に調整を行って、許可をいただいたわけでございますので、私たちといたしましては、工事の実施等につきましては瑕疵のないものである、一日も早く普天間基地の移設が実現できるように進めていきたいと、そういう気持ちで実施をいたしております。工事の内容等につきましては何ら瑕疵がないというふうには考えております。

○国務大臣(岸田文雄君) 今日は何の日かという御質問ですが、糸数委員のお立場を考えると、一番御縁の深い日として挙げるとしたならば、沖縄において米軍が上陸を開始した日だと承知をしております。

○糸数慶子君 まさにその日は、七十年前の三月二十六日に、太平洋戦争で初めて米軍が、日本の沖縄の慶良間諸島、いわゆる日本での地上戦を展開した日なんです。

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

しております。また、同日、翁長知事は、沖縄防衛局に対して、第三者委員会の検証作業が終了するまで代替施設建設に関する調査を見合わせるなど、作業の中断を求めています。しかし、政府は、こうした申入れを考慮することなく作業を続行し、仮設棧橋の設置工事の準備などを行っていました。政府は、こうした翁長知事の第三者委員会における検証作業や作業中断の申入れの意図について明確に把握しているのでしょうか。防衛大臣にお伺いいたします。

○国務大臣(中谷元君) お尋ねの申入れは、先般、沖縄県の安慶田副知事さんが沖縄の防衛局を訪ねまして、第三者委員会の検証作業の間、同事業に係る調査等を見合わせる等の配慮を求められたと承知をいたしております。また、代替施設建設事業に係る岩礁破砕等の許可に関し、二月十六日、沖縄防衛局は沖縄県から、同局が行ったブイのアンカー設置について必要な手続を実施するとともに、資料や現状写真を求められたと承知をいたしております。

○国務大臣(岸田文雄君) 今日は何の日かという御質問ですが、糸数委員のお立場を考えると、一番御縁の深い日として挙げるとしたならば、沖縄において米軍が上陸を開始した日だと承知をしております。

○糸数慶子君 まさにその日は、七十年前の三月二十六日に、太平洋戦争で初めて米軍が、日本の沖縄の慶良間諸島、いわゆる日本での地上戦を展開した日なんです。

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

味なものでしょうか。防衛大臣の見解を再度求めます。

○国務大臣(中谷元君) 工事の実施等につきましては、様々な角度、見地におきまして沖縄県に調整を行って、許可をいただいたわけでございますので、私たちといたしましては、工事の実施等につきましては瑕疵のないものである、一日も早く普天間基地の移設が実現できるように進めていきたいと、そういう気持ちで実施をいたしております。工事の内容等につきましては何ら瑕疵がないというふうには考えております。

○国務大臣(岸田文雄君) 今日は何の日かという御質問ですが、糸数委員のお立場を考えると、一番御縁の深い日として挙げるとしたならば、沖縄において米軍が上陸を開始した日だと承知をしております。

○糸数慶子君 まさにその日は、七十年前の三月二十六日に、太平洋戦争で初めて米軍が、日本の沖縄の慶良間諸島、いわゆる日本での地上戦を展開した日なんです。

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を

○糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を



何という失礼な言い方をされるのでしょうか。このような米軍人の発言を許している日本政府も許せません。

安倍首相、辺野古に来て現場を見てください。沖縄だけこのように強制的に基地を集中させ、日本本土は生き延びられると考えているのですから。安倍首相は、我が国を守るためと言っているらしいんですが、その我が国の中に沖縄は入っているのでしょうか。沖縄にだけ犠牲をまた強いのですか。なぜ日本本土に普天間基地に代わる基地を置こうとはしないのですか。

沖縄戦で日本軍は沖縄の人間を守らなかった。現在辺野古で国が行おうとしている、地元の民意を踏みにじってやろうとする新基地建設は、七十年前に日本軍がやったことと同じことです。安倍首相は国民の命と財産を守るとおっしゃいながら、沖縄に新基地が建設されれば、戦争がもし起きたとしたら沖縄はターゲットにされ、再び沖縄の人間の命は奪われることになり。それでもなお、七十年前の沖縄戦と同じように、沖縄県民の意思など問答無用とばかりに辺野古に新基地建設を推し進めるなら、沖縄にある全基地を撤去せよと私は申し上げたい。

最後に、私の戦争体験を同封します。これを読んで安倍首相の意見をお聞かせくださいということ、これは名護市の辺野古にお住まいの島袋文子さんが昨日私に託したお手紙で、安倍首相に対しては別紙、また戦場体験をされた冊子を同封してお渡ししております。

安倍首相に対しては、是非、島袋文子さんに対するお返事をいただきたいのですが、今私が読み上げましたこのお手紙を読んで、両大臣に率直な感想をお伺いしたいと思っております。

○国務大臣(中谷元君) お手紙、拝聴させていただきました。二度と戦争を起こしてはいけない、また平和を維持していかなければならない、そのお気持ち、私も受け止めます。そして、その気持ちは私も共有をいたしております。

その一方で、防衛大臣といましては、日本の領土、領海、領空及び国民の生命、財産、これはしっかり守っていかなければならないわけでもございまして、戦後七十年になりますけれども、日本は平和で、そして経済的な豊かさを維持をし、民主主義も守られているわけでもござい

安全保障でいいますと、やはり自衛隊と日米安保条約、これが日本の安全保障を守ってきた原則でございまして、最近我が国を取り巻く安全保障環境、これは厳しさを増しております。やはり沖縄の海兵隊を含む在日米軍全体のプレゼンス、これを低下させることはできないということ、そして沖縄の地理的優位性、またアメリカの海兵隊の特性、その中でも普天間飛行場の危険性、これは一刻も早く除去する必要があるとしまして、総合的に勘案しますと、キャンプ・シユワブ、辺野古に移設することが唯一の解決策であるという考え方には変わりません。そして何よりも、移設によって普天間飛行場は全面返還されることですから、沖縄の負担軽減に資するものと考えております。

こういった考え方は政府の考え方でございまして、様々なレベルで地元の皆様方と対話を行いつつ、こういったことについて御理解をいただき、また、皆様方との意見も拝聴させていただきながら事業の推進を図ってまいりたいというふうに思っております。

○国務大臣(岸田文雄君) ただいま委員の方から島袋文子さんのお手紙を讀んでいただきました。本日に七十年前の大変な御苦勞を思い出すときに、胸の痛みがございました。

私も出身が広島です。七十年前、全く別の形で多くの親族、関係者が悲惨な思いをいたしました。沖縄においては地上戦が行われたわけでありまして、それ以上で大変悲惨な光景が繰り返されたのではないかと想像をいたします。改めて、そのときの沖縄の皆様方の思い、置かれた立場に思いを巡らし、胸が痛み思いがいたします。

私たちは、こうした多くの沖縄の皆様方が大変な苦難に立ち向かい、そして戦後七十年間、そうした苦難にも負けず、しっかりと生き抜いてこられた、こういった御努力があるからこそ今日があるんだということを忘れてはならないと存じます。私も政治の立場から、こうした方々の思いに少しでも寄り添いながら、沖縄の負担軽減にも努めなければなりません。

しかし、あわせて、政治の責任として、国の安全保障など、様々な観点からしっかりと責任を果たしていかなければなりません。是非、そういった思いでしっかりと政治の責任を果たしていくべく努力をしていきたいと思えます。

○糸数慶子君 何と申し上げているのかという思いでございます。これだけの島袋文子さんの思い、これは何もこちらだけが体験している沖縄戦ではなくて、そういうふうな体験をされた、例えばひめゆりの学徒、ひめゆりの先生方も資料館の前で本心に精魂込めて、御自身の体験から、本心にもう九十歳に届くような年齢ですが、力を振り絞って、二度と再び戦争がないようにということに体験を語っていらつしやいますけど、その心が本心に日本政府に届かないというのが残念でございますけれども、今の両大臣のお言葉の中から、気持ちも分かるけれども、でも基地は造らせるといふことであれば、やはり島袋文子さんの思いは届かないのかなという思いでございます。残念でございます。

それでは、仮設橋の問題について伺いたいと思っております。

現在、日本政府は、名護市辺野古における普天間飛行場代替施設建設事業の一環としていわゆる仮設橋の設置を進めていますが、この仮設橋は、辺野古のサンゴ礁等の自然環境にダメージを与えるのでその影響は深刻であることから、直ちに作業を中止すべきだと考えますが、まだ現在の作業の状況を防衛省に明らかにしていただきたいと思っております。

○政府参考人(中島明彦君) お答え申し上げます。仮設橋の設置工事につきましては、準備を進めておるところでございます。必要な準備が整い次第行うこととしております。ただ、その作業の内容及び実施時期などにつきましては、これを明らかにした場合、安全に実施できないなど事業の適正な遂行に支障が生じる可能性があります。ですから、お答えについては差し控えたく存じます。

引き続き、気象、海象、米軍の訓練などを含みます現地状況を見極めながら、関係機関とも調整しつつ、安全確保に万全を期して所要の作業を進めてまいりたいと思っております。でございます。

○糸数慶子君 平成十六年から十七年当時、辺野古で行われましたボーリング調査においてはこうした仮設橋の設置は計画されていなかったと承知しておりますが、その当時の計画と比較した上で、今回仮設橋を設置する目的やその規模、及びその完成予定時期について防衛省の見解をお伺いします。

○政府参考人(中島明彦君) 御指摘の仮設橋でございますけれども、代替施設建設事業におけます事業本体の設計に必要な地質データの取得及び確認をするための海上ボーリング調査において、関連する船舶の係留、また資機材の積卸しなどを目的として設置する計画でございます。その規模は、長さ約三百メートル、幅約二十メートルでございます。

先生御指摘の平成十六年頃に辺野古の沖で行われたボーリング作業でございますけれども、この際は、単管足場と申します足場を設置してやるボーリング作業で行ってございました。主として軽量の資材で行うことができたものですから、仮設橋については用いなかっただけでございます。完成時期につきましては、先ほど申し述べましたとおり、スケジュールにつきましてはお答えを